

高齢者人口がさらに7%増えたら？

高齢化のスピードに用語の定義が追いついていません。

国連が公式に「高齢化」や「高齢」社会を定義しているというのは、よくある誤解です。例えば、格付け機関のムーディーズは昨年、「超高齢」社会の国(65歳以上の高齢者が国民の5人に1人以上)は、現在の3カ国(ドイツ、イタリア、日本)から2020年には13カ国、そして2030年には34カ国に達すると主張しました。

この報告書は実質的に正しい予測に基づいていますが、定義については間違いを繰り返していたため、メディア全体で反響を呼びました。国連では、1982年に開催された第1回高齢化に関する世界会議で承認された、60歳以上を「高齢者」とする定義を公式に採用していますが、「高齢化」、「高齢」、「超高齢」社会に関する定義は実際には存在しません。

国連の人口部人口開発課前課長のメアリー・ベス・ワインバーガー氏は、この定義に関する問題をしばしば処理してきました。ワインバーガー氏は、「高齢化社会」には国連お墨付きの定義があるという考え方は1950年代の研究(『人口高齢化及びその社会的経済的影響』(1956年))に端を発しているとしています。

「ある国連出版物で、「若い国」、「成熟した国」、「高齢国」(7%超)という任意に定義された分類が使われ、その後の出版物でもその定義が踏襲されたとみられます。そうして繰り返し使われるうちに、元々はある研究で任意に用いられた分類が国連の公式分類のように見なされるようになったのでしょう。」

その後、時とともに高齢人口率が上昇し、研究者らは65歳以上の人口の比率に7%、14%と任意の線引きをしました。他の基準も使われてはいましたが、この線引きが高齢化社会のペースを表すうえで便利な目安だとすれば、その次は「何社会」と呼べばよいのでしょうか。

「超高齢化」の次は？

ムーディーズが強調したように、一部の研究者は65歳以上の人口比率が21%を超えた国を「超高齢」社会と見なしています。しかし、世界における高齢化のペースを考慮すると、その次、つまり65歳以上人口の比率が28%を超えた社会を指す用語が必要となる日はそう遠くないでしょう。国連の世界人口推計(2015年改訂版)によると、日本は2020年、イタリアとドイツは2030年までにこの状況となります。その10年後には、オーストリア、韓国、ギリシャ、ポルトガル、スペインがこれに続くこととなるでしょう。

ブラハ経済大学人口統計学科のマルティナ・ミスコルチ氏とコルネリア・チェファルヴァイオヴァ氏は、会議発表論文『人口高齢化のプロセスとその動態(Process of Population Ageing and its Dynamic)(2013年)』において、この新たな分類を指す言葉として「ウルトラ高齢」社会を用いた研究者の走りといえます。人口の高齢化を示す用語はさらに必要となるため、この用語が定着するかどうかは疑問です。

中国が2050年までに「ウルトラ高齢」社会の範囲を超える時、研究者らは新たなカテゴリーを指す用語探しの必要性に直面していることでしょう。日本がそれよりも前の2045年に65歳以上人口の割合が35%に達してしまう可能性もあります。世界の高齢化のスピードは本当に速いのです。

【ご留意事項】

- 本資料は、アリアンツ・グローバル・インベスターズ・ジャパン(以下、当社)のグループ会社であるAllianz SEが作成したProject Mを当社が翻訳したものです。本資料のお取り扱いには御社内限りでお願いいたします。
- 本資料は、金融について情報を提供するものであり、当社の戦略等の勧誘を行うものではありません
- 本資料の内容には正確を期していますが、必ずしもその完全性をAllianz SE及び当社が保証するものではありません
- 本資料には将来の市場の見通し等に関する記述が含まれている場合がありますが、それらは資料作成時における当社またはAllianz SEの見解であり、将来の動向や結果を保証するものではありません
- 本資料に記載されている内容は既に変更されている場合があります、また、予告なく変更される場合があります
- 最終的な投資の意思決定は、商品説明資料等をよくお読みの上、お客様ご自身の判断と責任において行ってください
- 本資料には、当社がAllianz SEから対外秘扱いで入手した情報が含まれていますので、Allianz SEまたは当社の事前の承諾なく第三者に開示すること、当該資料の一部または全部の使用、複製、転用、配布等をご遠慮ください

アリアンツ・グローバル・インベスターズ・ジャパン株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第424号

一般社団法人日本投資顧問業協会 加入

一般社団法人投資信託協会 加入